

D-KS1200 ビッグキックスクーター

取扱説明書／保証書

はじめに

※この取扱説明書を無断で転載・複製することを固く禁じます。

この度は、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用前に必ず取扱説明書(本書)をよくお読みになり、本製品を正しく安全にお使い頂きますようお願いいたします。

■対象年齢:12歳以上 ■適応身長:150cm~ ■適応体重:70kg以下

■1人乗り用 ■本体サイズ:約H93×W56×L126.5cm ■タイヤサイズ:12インチ

■本体重量:約10kg ■素材:スチール ■セット内容:本体一式、六角棒レンチ(6mm)、取扱説明書(保証書)

安全上・使用上のご注意

ご使用方法を間違えると重大事故につながります。下記に注意してください。

(注意事項を守らずに発生した事故・ケガ等については一切責任を負いかねます。)

安全上のご注意

- ・本製品の改良により写真と多少異なる場合があります。
- ・回転部に指や髪、衣類などをはさまないようにご注意ください。
- ・転倒やケガを防ぐため、取扱上の安全事項が満たされているかをご使用前に必ずご確認ください。
- ・周囲を確認し人や物に当たらないよう安全な場所でご使用ください。
- ・公道での使用や傾斜地、危険な場所では絶対に使用しないでください。
- ・階段、縁側など転倒の恐れのある場所、火気、砂地、湿地、土手、水辺、凍結の恐れがある場所では絶対に使用しないでください。
- ・すぐに止まれるスピードでご使用ください。カーブではスピードを出さないでください。
- ・他の方が前後に押したり、危険な乗り方は絶対におやめください。
- ・転倒の危険があります。周囲には十分注意してください。
- ・平坦で乾いた路面で、使用上の注意と適応身長、適応体重を守ってご使用ください。
- ・夜間や視界の悪い場所、雨の日は使用しないでください。
- ・飲酒しているとき、病気やケガで安全に運転できないときは絶対に乗らないでください。
- ・安全上、プロテクター・ヘルメット・ひじ当て、ひざ当て等の保護用品を必ずご着用ください。
- ・組立・高さ調整などは必ず大人の方が行ってください。

ご使用上のご注意

- ・ご使用前に、ハンドル高さ調整などすべての留金具及び固定部品が損傷なく、しっかり固定されていることをご確認ください。連結部品を繰返し緩めたり締めたりすると、ねじの固定機能が弱くなる恐れがあります。
- ・ハンドルと前輪タイヤが直立していることをご確認ください。
- ・タイヤがきちんと結合され、損傷がないかご確認ください。(損傷がある場合は直ちにご使用をやめ販売店へご連絡願います。)
- ・タイヤがすり減っていないかご確認ください。すり減ったタイヤでのご使用はおやめください。
- ・ハンドルブレーキの利きをご確認ください。
- ・片側ブレーキをかけないでください。特に前ブレーキのみをかけると転倒し、ケガの恐れがあります。
- ・急ブレーキをかけないでください。スリップして転倒する恐れがあります。
- ・一人乗り専用です。複数人でのご使用は絶対におやめください。
- ・ご使用の際は安全のため必ず靴を履いてご使用ください。
- ・危険ですので、改造・分解・指定箇所以外の調整は、絶対に行わないでください。(保証対象外となります。)
- ・サビまたは破損等・異常がある場合は使用を中止して、販売店にご相談ください。
- ・安全のため破損・変形した場合は速やかにご使用を止めてください。

使用上・保管上のご注意

ご使用上のご注意

- ・ぞうり・サンダルなどの履物を履いての乗車は絶対におやめください。
- ・マフラー/スカートなど、ハンドル・車輪などに引っかかる可能性のある服装での乗車はおやめください。
- ・前後輪の周辺や回転部分には、手や足をいれないでください。
- ・ぶつけたり、ふりまわすなど乱暴な遊びはしないでください。
- ・小さな部品や梱包用の緩衝材は誤飲や窒息、ケガの危険がありますので小さなお子様はご注意ください。

保管上のご注意

- ・雨ざらしの場所や水に濡れやすい場所に保管しないでください。
- ・直射日光があたる場所、火気がある場所、高温になる場所には保管しないでください。
- ・転倒や落下などの可能性があるなど周囲の安全が確保できない場所に保管しないでください。

組立前の確認

●ブレーキにつきましては輸送中や組立時に調整がずれる時があり、**完全な調整が出来ていない場合がございます**。調整が必要な場合は、お客様に調整をお願いしておりますが難しい場合はお近くの自転車販売店にご依頼(有償^{*})ください。※お客様のご負担となります。

●タイヤの空気は少なめになっている場合があります。空気が少ない状態でのご使用はパンクやチューブ破損の原因になりますので必ずエアチェックを行ってください。
また、**パンクにつきましては初期不良以外は保証対象外となります**。

●適応体重を超えられる方がご使用された場合は保証対象外とさせていただきます。

●万が一、不具合があった場合、ご使用後の商品につきましては交換対応致しかねますので、必ず乗車前点検を行ってください。また、**事前連絡なしでお客様の方で修理されたものに関しましては、一切の保証を致しかねます**。

●初期不具合の対応時にダンボールに戻していただく場合がありますので、点検が完了するまで捨てないでください。

●運送破損、初期不良は到着後、**一週間以内**にご連絡ください。

■予めご了承ください

- ・部品の形状は多少異なる場合があります。
- ・製品の仕様は改良のために予告なく変更する場合があります。
- ・塗装・シール色は紫外線に当たると変色する場合があります。
- ・連結部分に塗装剥離が発生している場合があります。

使用前の点検リスト

● ハンドルがきちんと固定されて、グラツキがないか点検する。

グラツキがある場合、ハンドルポストの奥まで入っているか確認し、六角棒レンチでハンドルステムの六角穴ボルトをきつく締め直してください。

● タイヤの方向とハンドルの方向が一致しているか点検する。

一致していない場合は、ハンドルステムの六角穴ボルトをゆるめて、合わせ直して、再度しっかりと固定してください。

● タイヤに変形がないか点検する。

タイヤに変形箇所がないか点検してください。

● 本体の各ボルトの緩みがないか点検する。

各部分のボルトはしっかり締め直してください。

● タイヤの空気圧を点検する。

空気圧が低すぎるとタイヤの損傷が早く、パンクの原因となり、また車輪の回転が重くなります。

■ パンク防止策

タイヤの空気は20日くらいで自然に減少しますので、こまめに空気の注入をして正常の状態で乗車してください。

◎主なパンクの原因…釘やガラス破片などを踏んだとき、段差に乗り上げたとき、空気圧の不足



警告

固定が不完全なために生じた事故・変形・破損・ケガについては一切責任を負いません。使用後についても各部に異常がないか確認して下さい。万が一、異常が見られる場合は使用を止めて販売店にご連絡してください。

メンテナンスについて

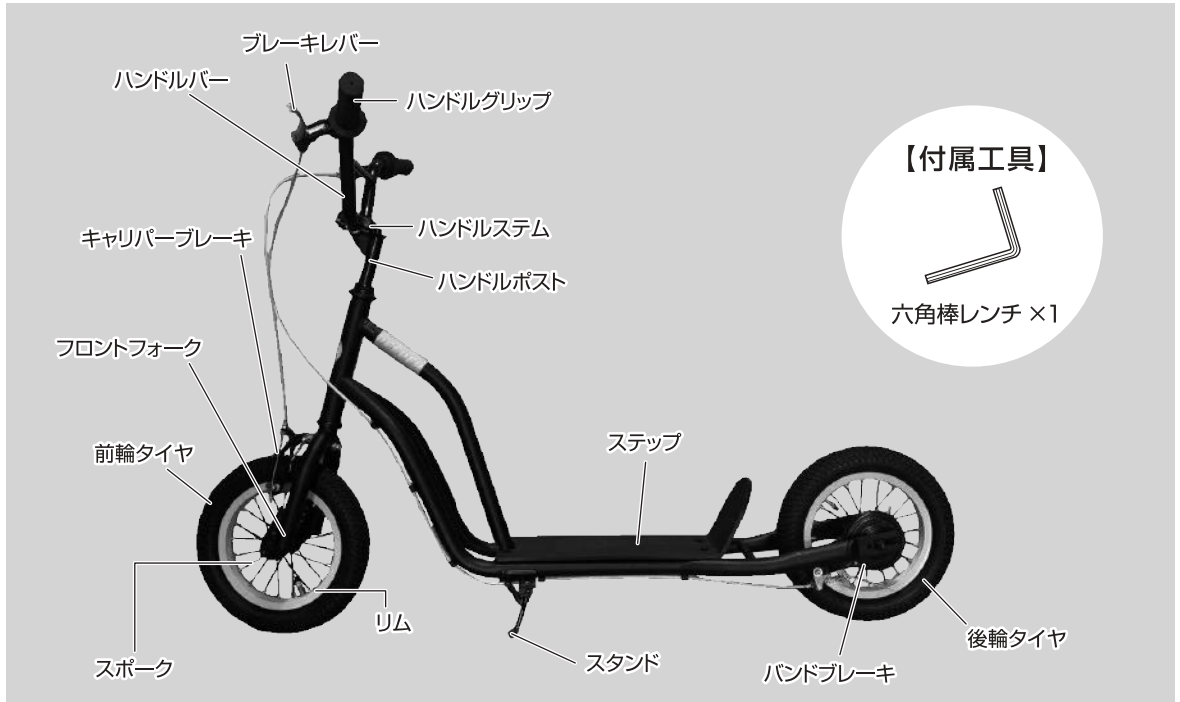
※安全にご使用いただくために必ず定期的なメンテナンスを行ってください。

- ・損傷の原因になりますので水・油・砂の中に入れてください。
- ・本体を裏返し、損傷がないかを確認し、タイヤがきちんと回ることをご確認ください。
- ・ブレーキは特に定期的にご確認ください。
- ・ご使用と共に各部ねじが緩む可能性がございますので、定期的な締め直しをお願いいたします。
- ・分解・改造は思わぬ事故につながりますので絶対に行わないでください。
- ・シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。
- ・回転部分には手を触れないでください。
- ・リム、ブレーキレバーにワックスをかけないでください。
- ・長期間保管後、再使用される場合は、点検整備を行ってからご使用ください。

■ 日常のお手入れ

- ・乾いた布やブラシで泥、土、ほこりを落としてください。
- ・水などで濡れた場合は、よく乾燥させてから可動部に注油してください。その際、ブレーキゴム、後ろブレーキ、リム、タイヤゴム部分には注油しないでください。

各部の名称



※本取扱説明書の図は製品の動作を説明するための例示であるため、実物と異なる場合があります。

また、本取扱説明書は予告なしに変更されることがあります。

最新の取扱説明書は弊社HPよりダウンロードが可能です。 <http://www.ikesho-n.jp/>



①ハンドルを本体に差込みます。

※ハンドルがフレームに入りにくい場合は、ハンドル差込み前にハンドル固定ナットを手で押さえながら、ハンドルステムの六角穴ボルトを半時計回りに回してハンドル固定ナットを少し下げてください。

⚠ 注意

※小さな部品や梱包用の緩衝材は誤飲や窒息、ケガの危険がありますので小さなお子様はご注意ください。



②ハンドルの高さを調節する場合、限界標識が見える状態で固定しないで下さい。ハンドルが不安定になり大変危険です。

🚫 禁止

※ハンドルは本体に限界標識が隠れる高さで固定してください。限界標識以上に上げすぎるとハンドルの抜けや破損の恐れがあり大変危険です。



③ハンドルステムの六角穴ボルトを六角棒レンチでしっかり締め、ハンドルを固定します。



ハンドルの角度を調節する場合は、左写真に示すハンドルステムの4つの六角穴ボルトを六角棒レンチでゆるめ、角度を調節します。調節後は六角棒レンチで元通りにしっかり締めます。

(ボルトを回す際は、対角の位置関係になっている順で行ってください。)

キャリパーブレーキの調整方法

リムとブレーキパッドが接触している、もしくは片ぎきになっている場合は調整を試してください。



①ブレーキレバーを強く握って、ブレーキインナーワイヤーの初期伸ばしをします。ブレーキレバーの遊び幅が多い場合はAを回して、インナーワイヤーのたるみを調整してください。

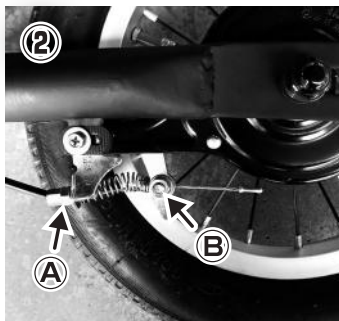
微調整で改善しない場合は、Bのナットを緩め、ワイヤーの固定位置を変えて、ワイヤーの張りを調整してください。



②ブレーキが片ぎきの場合は、キャリパー本体を固定している支点がズレていますのでCの部分にレンチをはめ、左右に動かしてブレーキパッドとリムの間が左右均等になるように調整してください。

バンドブレーキの調整方法

後輪タイヤの回転が重い場合は、調整を試してください。



①左のブレーキレバーを3回ほど強く握ってワイヤーの初期伸ばしをします。

②Aのナットを回してブレーキレバーの遊びが1/3になるようにします。後輪の回転が重い場合は、Bのナットを緩めてワイヤーの張りを調整します。